

■ 平成27年11月18日～11月20日 建設委員会県外調査（山形県、秋田県）

1 11月18日 山形県議会、都市計画道路山形停車場松波線（山形市）

【調査目的】

街路事業による中心市街地の交通環境整備について

【調査概要】

山形県における取組状況について説明を受け、現地調査及び質疑応答を実施

<説明の概要>

- 都市計画道路・山形停車場松波線は、山形駅を中心とした環状道路や外環状道路、県庁、高速道路IC（山形蔵王IC）を結ぶ道路として整備を実施。
- 都市計画道路・山形停車場松波線の街路事業について（事業効果等）
 - ①交通渋滞が解消され円滑な交通を確保（山形駅と山形県庁間を約5分間短縮）
 - ②自動車歩行者道の整備により、双方の安全な通行を確保
 - ③歩道においては、地下水を循環させる「地下水還元方式」による無散水消雪施設の整備により、歩行者の冬期の快適な通行を確保（車道は除雪）
 - ④山形市内における最古の神社と言われている諏訪神社前の樹木について、路線のランドマークとして保全することにより、歩行者へ安らぎを演出。
※保全にあたっては、樹木を歩道内に残すことができる道路線形とした。
 - ⑤山形停車場松波線景観整備研究会を組織し計画を立案し、整備を実施。
 - 方針1 環境を活かす（山々と広い空を望める通りつくる）
 - 具体的な整備手法
 - ・電線共同溝による電線類の地中化
 - 方針2 文化を育む（心に残る通りの風景をつくる）
 - 具体的な整備手法
 - ・自然石を用いた歩道舗装、ベンチ設置
 - ・地場産品を用いた道路施設の設置（山形鋳物製の車止めの設置）
 - ・季節により道路照明灯の光色を変化させ雰囲気演出
 - ⑥高速道路インターチェンジのアクセス性向上により、仙台－山形間の高速バス輸送人員が増加。

<質疑応答>

Q：当該道路が整備されたことにより、観光やまちのにぎわいなどの観点から、具体的にどのような効果があったか？

A：高速バスの便数が増えたことにより、山形と仙台の交流人口が増えたという感触を得ている。整備されるまでは、高速道路を利用したバスがほとんどなく、移動は鉄道の利用が基本であった。整備当初は、30分に1本程度であったが、山形－仙台間が1時間で結ばれるということから需要が多く、現在では朝・夕は10分に1本程度に増えている。



2 11月19日 東北自動車道 西郷高架橋（山形県村山市）

【調査目的】

軟弱地盤における高架橋の整備について

【調査概要】

現地にて西郷高架橋を含む東北自動車道の整備について説明を受け、質疑応答を実施

<説明の概要>

【東北自動車道について】

- 東北中央自動車道は福島県相馬市を起点とし、福島市・米沢市・山形市・尾花沢市などを經由し、秋田県横手市で東北横断自動車道釜石秋田線に連結する総延長約268kmの高規格幹線道路。
- 当該路線は、福島県・山形県・秋田県の内陸部の主要都市を結ぶとともに、常磐自動車道、東北自動車道、山形自動車道、秋田自動車道と接続することから、福島県県北地域、山形県内陸部、秋田県県南地域相互との高規格幹線道路網を形成し、地域間交流はもとより緊急時における代替および迂回等のネットワーク機能の強化を担う路線。
- 現在、山形上山ICから東根IC間が開通し、山形自動車道と山形JCTで接続されている。

【西郷高架橋について】

- 西郷高架橋は、東根IC～尾花沢IC間の（仮称）村上IC周辺の軟弱地盤対策区間にあり、現在整備中。
- 軟弱地盤対策区間の最大軟弱層厚は180mとなっている。
- 基礎工形式は、打撃工法（鋼管杭Φ800mm）。
- 橋梁下部工形式は、ラーメン式橋台、張り出し式橋脚、逆T式橋台を採用。
- 軟弱地盤対策として、真空載荷を継続して盛土（真空圧密工法）を行っている。

<質疑応答>

Q：打撃工法（鋼管杭Φ800mm）による杭の摩擦により保持する工法は、コスト的には高くなるのか？

A：コストも含めて検討した結果、当工法を採用。

Q：杭の摩擦により保持する工法だと、上部（路面）が完成すると沈むのではないか。

A：完成すると約3年で、5cm位沈むと考えている。しかも、均一的に沈むことは想像しにくいので、それぞれの橋脚にジャッキアップブラケットを取り付けており、路面をジャッキアップしながら調整する必要がある。



3 11月19日 大曲花火大橋（秋田県大仙市）

【調査目的】

パブリック・インボルブメント（P I）方式を導入した橋梁整備について

【調査概要】

現地にて大曲花火大橋の整備にかかる事業概要等について説明を受け、質疑応答を実施

<説明の概要>

【事業概要】

●事業名

地方道路交付金工事 大曲橋工区

●路線名・箇所名

主要地方道 大曲大森羽後線（大仙市大曲西根～大仙市大曲金谷町）

●事業規模

【事業全体】延長 L = 1, 3 3 4 m

標準幅員 W = 1 6. 0 m

【大曲花火大橋】

延長 L = 5 2 3 m

標準幅員 W = 1 4. 0 m

●事業年度

平成16年度～平成28年度（予定）

※平成25年8月にバイパスが完成し供用。

【大曲橋架替検討委員会（P I方式）の採用理由】

●都市内での大事業であるため、ルート選定に際し地域コミュニティの保全、文教及び公共施設の取り扱い等、市民生活に密接に関連する事項が多岐にわたることから。

●市民と行政との双方向コミュニケーションを図り、多様な意見を計画に反映させ、事業の透明性、信頼性を高める必要があるため。

<質疑応答>

Q：どのようにP I方式を進めたのか？

A：当時は全国的にも例がなかったので、試行錯誤しながらとなった。ルートを提示し、選定してもらう形を取った。検討委員会を4～5回開催し、意見をいただいた。

Q：検討委員会の構成はどのようになっているのか？

A：学識経験者、地元の代表等による22名の構成である。



4 11月19日 秋田県議会（秋田市）

【調査目的】

秋田県道路整備計画について

【調査概要】

秋田県における道路整備にかかる取組状況について説明を受け、質疑応答を実施

<説明の概要>

●秋田県道路整備計画の概要

○県政運営指針である「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」を推進するために必要とされる道路整備の方向性を示している。

○今後10年間を見据えた道路整備の方向性を示しており、具体的な計画期間は平成26年度～平成30年度としている。

●秋田県内の道路の現状

○高規格幹線道路の整備率は85%。3カ所のミッシングリンクが残っている。

○地域高規格道路の整備率は6%と低い状況。県の優先課題として高規格幹線道路の全線供用に取り組んできたことによるが、高規格幹線道路を補完する地域高規格道路の整備促進が課題となっている。

○一般国道、県道については、道路網密度が東北地方では岩手県に次ぎ低い状況。

一般国道の改良率は約96%、県道の改良率は約73%。

●道路整備の方向性

○県における現状と課題を整理、道路が対応すべき課題をとりまとめ、「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」の施策体系との関連を整理し、道路整備の方針として「5つの柱・9つの施策」を体系化。

○今後10年を見据えた道路整備の方向性を示す道路ネットワークは次の3点。

①県土の骨格を形成する道路ネットワーク

②産業に寄与するネットワーク

③観光に寄与するネットワーク

○地域別道路整備計画

地域の特性を踏まえながら、地域の課題とそれに対応するための道路整備の施策を整理し、8地域ごとに道路整備の方向性を示している。

各地域における道路について、上記①～③を重ね合わせて路線の重要度を把握し、整備計画を作成。

<質疑応答>

Q：一般国道の改良率が約96%ということであったが、国管理と県管理の両方を含めての数値なのか？

A：国管理部分の改良率は100%、県管理部分の改良率が93.3%となっており、両方を合わせると約96%となる。

Q：秋田県は自動車の保有率が高いと聞いているが、高齢化社会の進展で自分で運転できない人が増えてくることも想定される。今後は、運転免許を返上して、自転車などで移動される方が増えてこられると思うが、その対策は検討されているか？

A：本県は降雪量が多く、自転車が使われる時期は限られている。コミュニティーバスを運行されている事例などがある。



5 11月20日 秋田県立中央公園 あきたスカイドーム（秋田市）

【調査目的】

年利用可能な屋内グラウンドの整備について

【調査概要】

秋田県立中央公園の概要及びあきたスカイドームの再整備にかかる概要について説明を受け、質疑応答を実施

<説明の概要>

【秋田県立中央公園について】

- 秋田空港を取り囲むなだらかな丘陵地、樹林地、草原からなり、空港の騒音緩衝や環境の保全を図るとともに、自然条件を生かした広域的なレクリエーション、スポーツ、休養及び散策の場として設置。
- 平成28年度には「スポーツマスターズ」、平成29年度には「ねんりんピック」の開催を予定。

【あきたスカイドーム再整備について】

- 事業期間 平成26年度～平成27年度
- 事業費 約4.2億円
- 事業概要
 - ・ロングパイル人工芝張（芝丈50mm） 8,510㎡
 - ・アンツーカー舗装（本塁部） 68㎡
 - ・本塁部移動装置（ターンテーブル） 2基
 - ・照明器具更新（LED化、非常用照明機能付）160基 等
- あきたスカイドームは、平成2年に完成し、雨・風・雪にかかわらず利用できる屋根付きグラウンドとして、広く県民に親しまれている。
- 近年の人工芝性能向上により、様々なスポーツでプレー可能な人工芝が開発されたことから、運動環境・室内環境の改善のため、人工芝化と附属施設の再整備を実施。
- 併せて、秋田県地域防災計画において、広域防災拠点（一次物資集積拠点）として位置づけられたので、今回照明器具をLED照明に更新。
- ①少年用サッカーピッチ（2面）、②野球・ソフトボール用ファウルラインを常設表示ラインとしている。

<質疑応答>

Q：運営形態はどのようになっているのか？

A：平成18年度から指定管理者制度を導入している。

Q：今回LED照明に更新されたが、どの位経費節減できたか？

A：年間70万円の節減となった。

